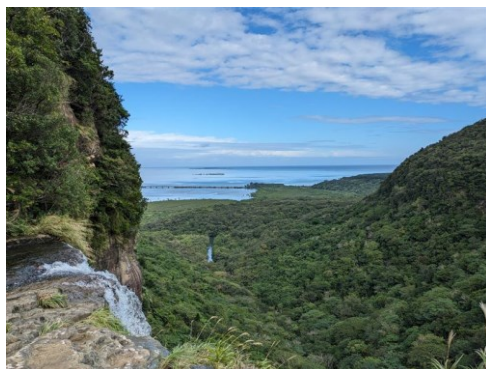
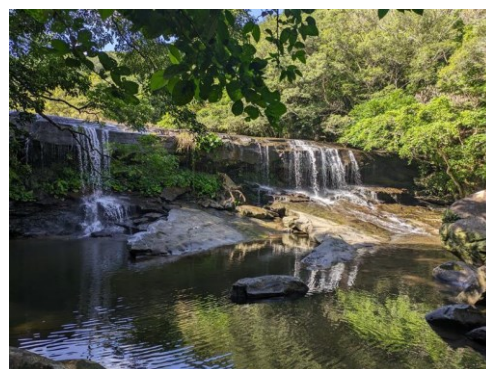


1. 地域概要

計画名	西表島における立入制限エリア導入を核とした持続可能な自然体験型観光推進計画
対象エリア名	西表島
実施主体	沖縄県 竹富町 自然観光課
年間観光客入込数	約33万人（平成22年～令和元年10年間の平均値）
年間延べ宿泊者数	約7.6万人(宿泊率：23%)
主な観光資源	ヒナイ川（ピナイサーラの滝）、西田川（サンガラの滝）、浦内川源流域



ピナイサーラの滝



サンガラの滝

● 観光ビジョン

西表島エコツーリズム推進全体構想

- 「西表島の自然を損なうことなく持続的に利用し、将来に渡って自然からの恵みを得る」ことを目的に策定
- 西表島の自然や動植物、それらと共存してきた地域文化を尊重し、無秩序な観光利用により損なわれないように保全を図りながら、安全で質の高い体験を通じてその魅力を伝え、地域の持続可能な振興につなげていく

● 推進体制（協議の場）

- 地域住民、学識経験者、地元関係団体、関係行政機関等計40委員からなる竹富町西表島エコツーリズム推進協議会を開催
- 令和元年度の設立以降、概ね年2回程度の開催頻度。必要に応じ下部組織としてWG等を設置し、集中議論

行政機関	事業者	住民関係者
国 (環境省、林野庁)	ガイド事業者代表	地元住民代表
沖縄県	観光・商工業関係代表	学識経験者
竹富町	自然環境保全等 関係団体代表	

2. 課題

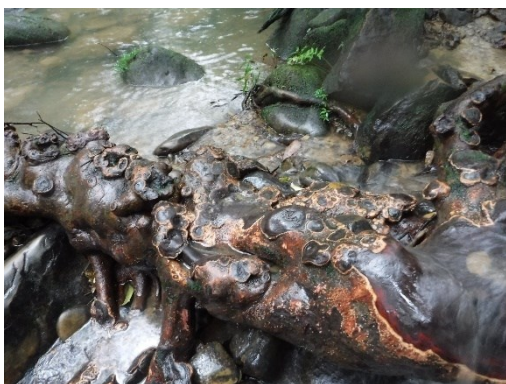
● 主な課題

主な現状・問題点		影響を受けている主な対象
1. 自然資源の悪化	過剰利用により、踏圧による樹木の根や岩の削れ、離合地点での林床の裸地化等、地域の観光資源である自然環境の劣化が生じている	地域資源
2. 地域感情の悪化	- 地域・住民共通の資産である島の自然環境の劣化により、観光利用に対する地域感情の悪化が顕著である - 竹富町は消防非常備市町村であるが、十分な知識を持たない観光客の遭難事故発生による消防団の出動が大きな負担となっている	地域住民

1. 自然資源の悪化



踏圧により変形する自然環境
(二列の溝は人の足跡によるもの)



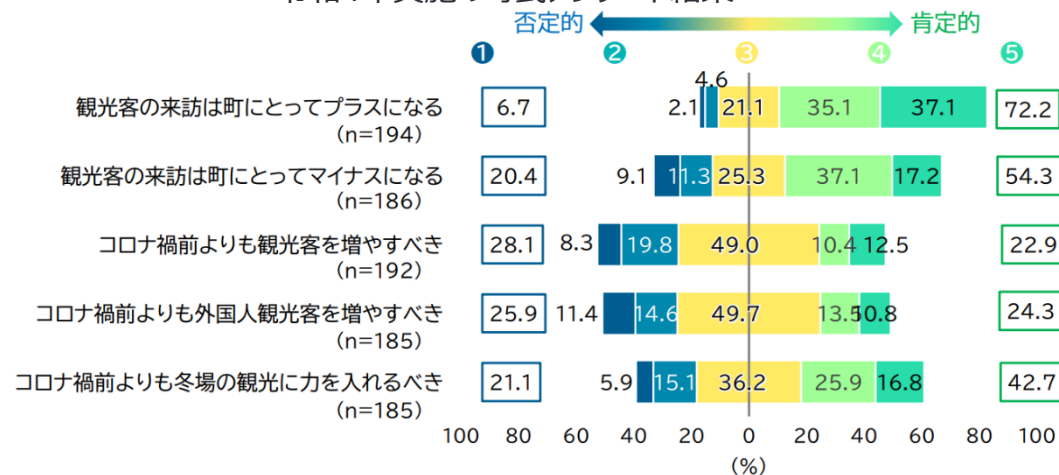
踏圧による樹根の変形

2. 地域感情の悪化

観光客遭難事故に伴う消防団出動記録の事例

発生日時：令和6年10月 AM2:30 道迷いにより遭難救助要請
 遭難者：昆虫採集目的の観光客 AM6:00 日の出に合わせて集合・搜索
 AM6:30 遭難者発見、カヌーにて救助
 AM7:00 活動終了

令和4年実施の町民アンケート結果



観光客来訪に肯定的な評価が7割超の一方、否定的な評価も5割超

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

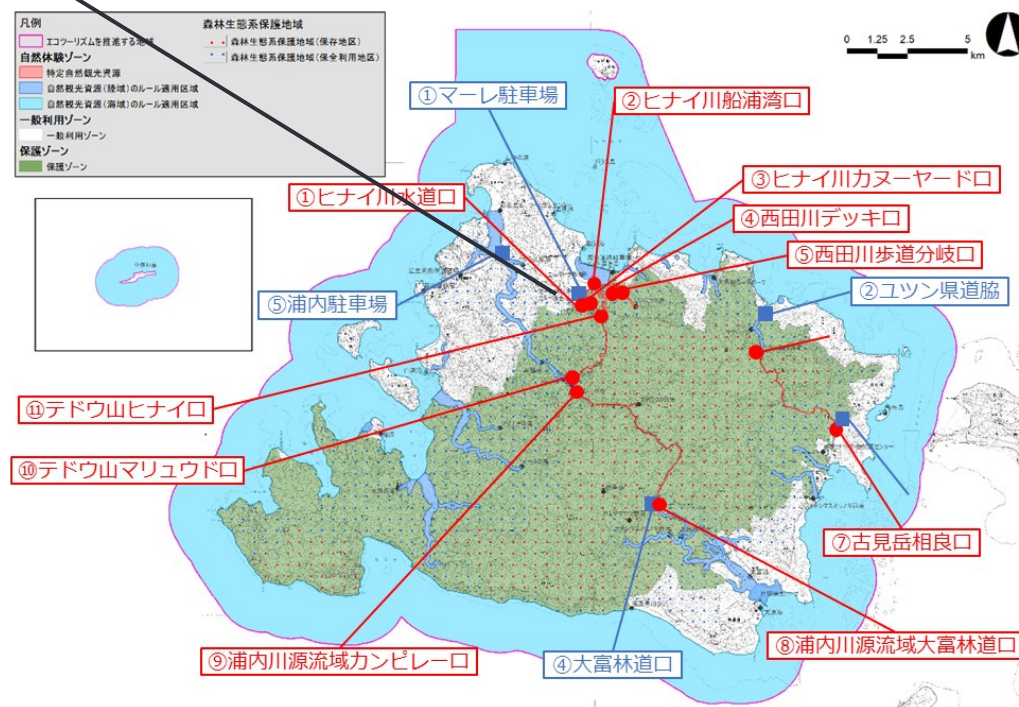
主な背景・要因

1. 受入許容を超える来島者数
 - ・ 航空路線・高速船等のインフラ整備や世界自然遺産登録などを機に、**自然体験型の観光利用者数が増加**
 - ・ 観光客数増加に伴い、自然体験活動に**十分な知識・技術を持たない観光客やルールを遵守しない事業者・観光客**の増加が見られる
2. 特定のフィールドへの集中
 - ・ ピナイサーラの滝を有するヒナイ川等、**特定のフィールドに利用が集中することで、自然体験フィールドの過剰利用**につながっている
3. 観光客の低いモラル意識
 - ・ フィールドで濡れたままの観光客が飲食店に入店し店内設備を汚損するなど、観光客のマナー・モラル遵守不足による軋轢が生じている
 - ・ 観光客は**島全体をレジャー施設のように捉えており、島は住民の生活空間でもある**という認識に乏しいことが原因で、マナーやモラルが低くなっているのではないかという住民の声も上がっている

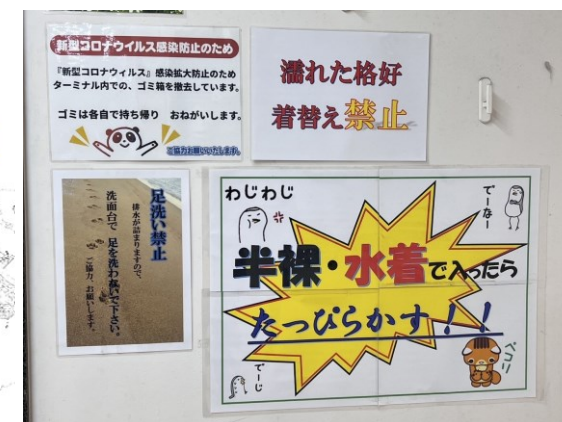
1.2. フィールドの過剰利用 (ピナイサーラの滝)



1.2. 無造作に係留される観光用カヌー



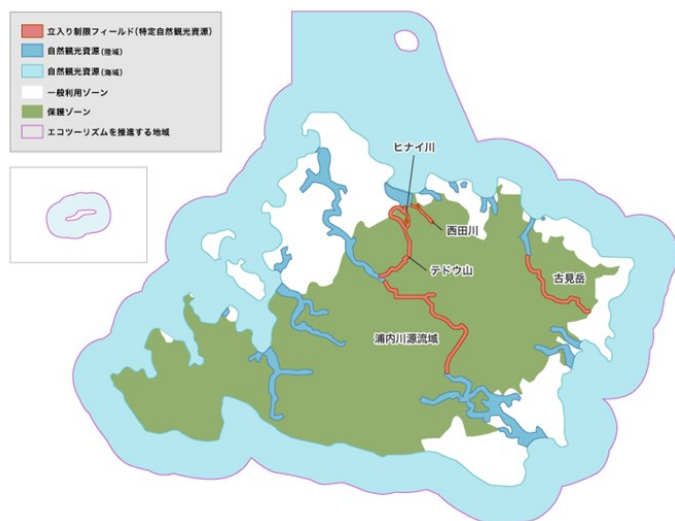
3. 観光客へのマナー違反行為等警告書 飲食店、港旅客施設等に多数掲示



4. 対策の概要

- 西表島では、豊かな自然を活用した自然体験型の観光が盛んに行われている。一方で、過剰利用等に伴う自然環境の劣化や、モラルの遵守不足等による住民生活への影響といった課題も生じている。
- また、ユネスコ世界遺産委員会からも、世界自然遺産登録時に要請事項として観光客の訪問レベル管理に関する要請事項を受けている。
- こうしたことを受け、エコツーリズム推進法に基づく法定協議会の設立及び議論を通じ、西表島エコツーリズム推進全体構想を策定するとともに、本事業においてその構想実現に係る事業を実施する運びとなった。

※全体構想において、特定自然観光資源に定めた区域（赤囲み）が本事業における取組の中心



需要の適切な管理

取組み 背景

①入域管理システムと標識の整備

- 自然体験フィールドの過剰利用により、自然環境の劣化やフィールドの混雑が生じている

内容

- エコツーリズム推進法に基づき、入域管理システムの導入や、特定自然観光資源区域を示す標識及びアクセス拠点への注意喚起標識の整備等を行う

取組み 背景

②観光客を適正かつ安全・快適に案内できるガイドの養成

- 自然体験フィールドの過剰利用や、観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 講習及び試験を開催し、立入制限エリア等において観光客を適切かつ安全・快適に案内できるガイドの養成を行う

マナー啓発

取組み 背景

③講習プログラムの作成

- 自然体験フィールドの過剰利用や、観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 立入制限エリアへの立入希望観光客を対象としたルール等講習プログラムを作成する。特定自然観光資源区域に個人で入域する場合においては、当該講習の受講を義務付ける

取組み 背景

④送客側事業者や観光客への適切な情報発信

- 観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 立入制限制度を含む観光管理の取組に関して、説明会や広報資料の作成等を通して、送客側事業者や観光客への適切な情報発信を行う

地域住民と協業した観光振興

取組み

⑤協議会の開催を通じた地域住民側の理解度向上

背景

- 観光利用に対する地域感情の悪化が生じている

内容

- 竹富町西表島エコツーリズム推進協議会を開催し、本計画に係る取り組みの共有・進捗報告、意見徴収、合意形成の場として活用する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 観光客の自然フィールド過剰利用による**自然環境劣化**
- 自然保護を目的とした「立入り制限区域導入」の**立入りに係る許認可行為が煩雑**

取組み

入域管理システムと標識の整備

- 実施期間：予約開始 令和6年9月～
管理開始 令和7年3月～
- 実施主体：竹富町

事業内容

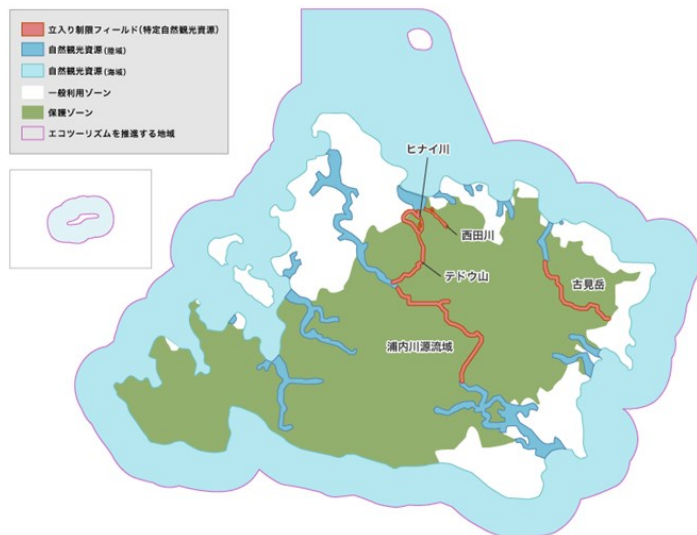
①：入域管理システム構築

- 立入制限区域導入に向けて、**立入承認申請から承認までの一連の申請プロセスを電子運用するためのシステム**
- エコツーリズム推進法に基づき、「立ち入り制限フィールド」における入域許可を、**1日410人以内に制限**

【目的】

- 本システムは、**人数制限のための単なる予約制度ではなく、エコツーリズム推進法に基づく許認可行為の円滑化**を目的として導入
- 入域にあたっては、法律に基づき竹富町が許認可を行う必要があるが、1日410人の観光客の許認可行為・予約の変更・キャンセルなどを1つ1つ行うことは非常に煩雑である。このため、システム導入によりその行政手続を自動化することで、管理の簡素化・行政の負担軽減を図る**

西表島MAP（赤色部分が立入り制限フィールド）



立入り条件

フィールドの名称	立入りの上限人数		立入りのための条件
ヒナイ川 <ピナイサーラの滝>	200人/日	合計 300人/日	登録引率ガイドが利用者に同行すること
西田川 <サンガラの滝>	100人/日		
古見岳	30人/日	50人/日	登録引率ガイドが利用者に同行すること または 利用者全員が町が主催する講習等を受講すること
浦内川源流域 <横断道、マヤグスクの滝>	50人/日		
テドウ山	30人/日		

※登録引率ガイドは試験に合格し立入制限フィールドを案内する資格を持ったガイドのこと

5. 主な取組み（詳細）

事業内容

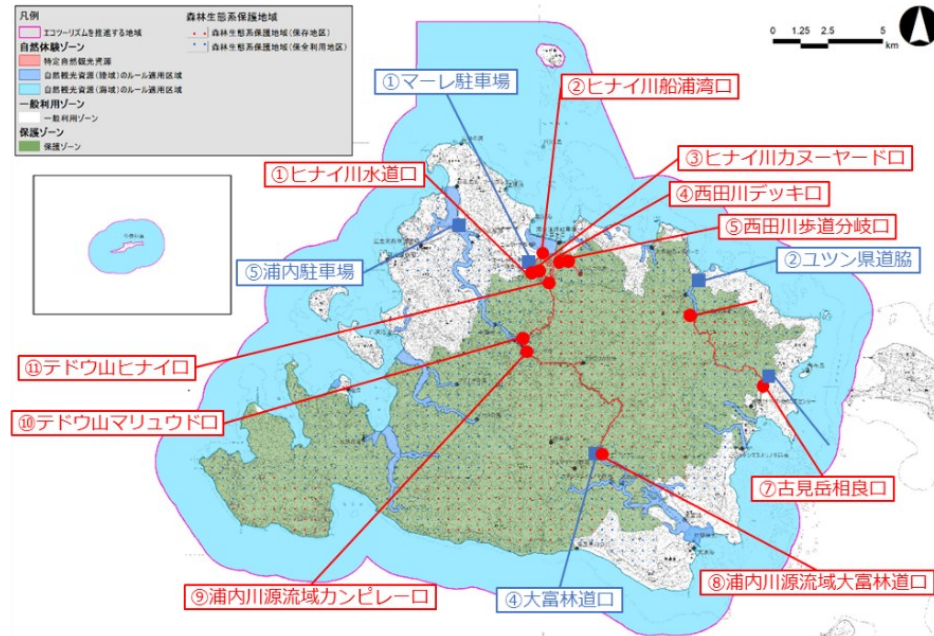
②：注意喚起標識等の整備

- ・ 特定自然観光資源区域標識（11基）、注意喚起標識（5基）を設置
- ・ 立入制限区域の入口部等に標識を設置。標識にはシステムで読み込むためのQRコードを表示し、入域を開始する際ガイドがQRコードを読み込むことで、入域承認申請プロセスのみでなく入退域状況についても管理
（予約システムのみでは、予約と実際の入退行動に乖離が発生する可能性がある）

【目的】

- ・ 入域管理システムと標識のQRコードを連動することで、ルートごとの利用状況等も把握
- ・ 入域者数やフィールド内の行動をデータとして取得し、検証することで、フィールドの順応的管理(※)に活用
※ 自然環境の変動や不確実性に対応するため、計画実施中に得られた情報に基づいて柔軟に計画を修正・改善していく

標識等の設置場所



●：特定自然観光資源区域標識
（11基）

■：注意喚起標識（5基）



5. 主な取組み（詳細）

一元的な入域管理システムの全体像



5. 主な取組み（詳細）

令和6年度事業の目標

- A：令和7年3月からの入域制限に向け、入域管理システムを導入し、入域管理・運用体制を構築する**
- B：令和6年9月から予約受け付けを開始し、運用体制に問題はないか、今後新たに検討すべき課題を特定する**

事業の成果／目標の検証結果

- A：入域管理システムの導入と入域管理・運用体制を構築できた**
令和6年9月から予約を開始し、令和7年2月25日付で約800件の申請を承認済み
- B：入域管理システムは、大きな問題なく運用ができた**
令和7年3月に入域制限を開始する体制が整った

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 実際の入域開始が始まる前の現時点で、下記3点の課題が明らかになった

- 1 ガイドや観光客の観光管理に対する理解醸成**
 - 予約の段階で立入者を明確にする必要があるという点で、現在の旅行業界における商習慣との親和性が必ずしも高くないことから、ガイド、観光客等の関係者の理解・協力が必要である
- 2 申請プロセスにおける申請者負担の軽減**
 - ツアー等の事業者予約と入域申請はそれぞれ別の手続きが必要であり、制度の複雑化の一因となっている
 - 今後、安定的に多くのガイド・観光客に利用される仕組みになるには、申請者の負担軽減が必要である
- 3 財源確保の仕組み検討**
 - 本事業含め自然環境保全に係る施策は、コストを要するにも関わらず、そのコストを施策を通じて回収することが相応に困難であり、財源確保の仕組み検討が必要である

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 入域制限開始後初の観光シーズンである令和7年夏に向け、立入制限制度を適切かつ継続的に運用するための体制を更に整えていく

- 1 観光管理に係る継続的な情報発信**
 - 観光管理の取り組みについて、国や県と連携しながら、送客側事業者や観光客に適切な情報発信を、継続して実施していく（説明会や広報等）
- 2 事業者予約との紐づけ、申請画面のUI等改善検討**
 - 事業者予約と入域申請を連携させることで、申請手続きを効率化
 - 申請システムのUIを改善しスムーズな運用を目指す
- 3 訪問税等の検討**
 - 検討が開始されている「訪問税」の導入等、外部来訪により増幅する行政需要や、持続可能な自然環境保全に必要な財源を確保する手段について、引き続き模索していく